

# 27PA-am008S

銀カルベノイドの特性を生かしたインドール類の化学選択的な不斉脱芳香化反応の開発

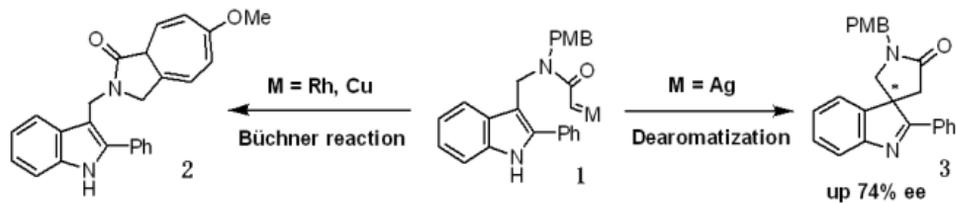
○神田 彩香<sup>1</sup>, 中山 弘貴<sup>1</sup>, 原田 慎吾<sup>1</sup>, 根本 哲宏<sup>1</sup> (<sup>1</sup>千葉大院薬)

## 【目的】

金属カルベノイドの反応性はカルベン炭素が配位した金属種に大きく依存することが知られている。当研究室では、求電子的な銀カルベノイドを用いたフェノール類の化学選択的な不斉脱芳香化反応を開発した<sup>1)</sup>。この反応を用いれば平面性の高い分子から三次元的な骨格を一挙に構築することが可能である。今回我々は、先の反応をさらに一般化するため、インドール類の不斉脱芳香化反応の開発研究に着手した。

## 【方法・結果】

インドール部位を持つジアゾ化合物 **1** にロジウム触媒あるいは銅触媒を作用させると、プフナー環拡大反応が進行した。一方キラル銀触媒を作用させると、化学選択的に脱芳香化反応が進行しスピロ環化体 **3** が得られた。現在、エナンチオ選択性の向上を目指し検討している。



1) H. Nakayama, S. Harada, K. Masato, T. Nemoto, *J. Am. Chem. Soc.* **2017**, *139*, 10188–10191.